

2017年10月9日に発行した上掲本に誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
40	終りから2行目	信仰によれる ^{なだめ} 着 ^め の供物	信仰によれる ^{なだ} 着 ^め の供物
41	前から2行目	<u>彼ら</u> は我らの罪のために	<u>彼は</u> 我らの罪のために
42	前から2行目	虚しき ^き 行状より	虚しき行状より
48	前から7行目	経験を味わ ^な い	経験を味わ ^わ ない
51	終りから5行目	^{ちすぢ} 血脈によらず	^{ちすじ} 血筋によらず
68	終りから3行目	どんない ^い 深い意味	どんなに深い意味
69	前から9・10行目	<u>(いわゆる、未完了過去であり)</u>	<u>アオリスト (不定過去) 時制であり、 ※</u>
74	前から10行目	ついに ^{ねむり} 眠 ^り	ついに ^{ねむ} り
74	終りから5行目	<u>眼</u> に就かれた	<u>眠</u> に就かれた
79	前から3行目	<u>プレシヤス</u>	<u>プレシヤス</u>
87	終りから2行目	教 ^い 益者の家庭	教 ^い 役者の家庭
95	終りから6行目	^{ぜんじ} 漸次	^{ぜんじ} 漸次
97	終りから4行目	先生が居られるのである	先生が居られるのである

※注記 69頁の前から9行目より11行目までに該当する英語の原文は以下の通りです。

The key words of these passages, reckon, yield, present are in the Aorist tense showing that a crisis in the believer's experience when he should first do these things by faith is implied. (CJP 誌 Vol. IX.No. 4. NOVEMBER 1934. p. 59-64)

英語の原文に従えば「in the Aorist tense」は「アオリスト (不定過去) 時制であり」と翻訳すべきでしたが、1951年10月15日発行の「今尚語る信仰の人」38頁では「所謂、未完了過去形であり」と誤訳されていましたので訂正しました。但し、「思うべし」(reckon: ロマ人への手紙6: 11)は、新改訳聖書では「思いなさい」、聖書 新改訳 2017 では「認めなさい」と訳されています。その原語は「ロギゼッセ」で「ロギゾマイ: 認める (動詞)」の現在・命令形です。